



【本号のトピックス】

第25回学術大会のご案内／
委員会だより(法人運営委員会、多職種連携委員会)／支部活動だより

日本老年歯科医学会第25回学術大会のご案内

遠藤真美

第 25 回大会準備委員長

九州歯科大学老年障害者歯科学分野

3月5日に日本老年歯科医学会第25回学術大会の演題募集を締め切らせていただきました。課題口演・一般口演、認定医審査ポスターと合わせますと240題を超え、その中には海外からの申し込みもありました。このように多数の申し込みをいただけたことによって、四半世紀を迎えた本学術大会が充実したものになるであろうと確信できたとともに、大会準備を進めております私たちへの期待の大きさを肌で感じております。そこで、本大会について簡単ですがご案内させていただきます。

大会のテーマは「生活に寄りそう歯科医療と高齢社会」です。そのテーマに合わせ、特別講演では、『高齢者医療と緩和ケア』について佐賀大学医学部附属病院地域包括緩和ケア科診療教授の佐藤英俊先生に講演をお願いしました。また、日常生活を通して認知症予防に積極的に対応されている西野憲史先生からは『認知症の予防・治療の最前線』について、歯科医療と認知症予防の可能性なども含めてお話していただけたと思います。

本学会のサブテーマとして“唾液”がございします。食べる、話すなどの口腔機能をより円滑に使うためには唾液を含んだ口腔環境の整備が重要であると考えられます。そこで、柿本保明大会長自らがコーディネーターとして、『高齢者の口腔乾燥症への対応』という特別企画を設けました。口腔乾燥症の対応において、多方面でご高名な先生方からのエビデンスを共有できる貴重な機会に



なると考えております。

ミニシンポジウムでは、『超高齢社会における高齢者の歯科診療を考える』、『高齢者の口腔機能低下』と日常臨床を再度、見直しながら機能低下への配慮などについての意見交換が図れると思います。

シンポジウムは、『医科歯科連携における歯科の役割』および『終末期高齢者における歯科の対応』というテーマで、歯科医療が健康な住民から終末期の方々とどのように生活に寄り添うべきかを、参加者の皆様と検討したいと思っております。また、本大会では、例年とは異なる視点として『アジアにおける高齢者歯科の連携に向けて』というシンポジウムを企画し、アジア諸国の現状から日本を見直し、またアジアにおける日本の役割を考えてみたいと思っております。

最後に、歯科衛生士シンポジウムは『いつまでも自分の口から食べるために～食べるを支

える歯科衛生士の力〜』と題して、多方面で活躍されている歯科衛生士さんと関連職種の方々と、口腔を通した健康支援についてのお話を頂きます。

また、四半世紀の記念ということもあり、懇親会は美味しい有名な某ホテルのコース料理と素晴らしい生演奏の音楽を博多湾クルーズにて味わっ

ていただく予定でございます。出来るだけ多くの皆様と触れ合って、楽しい時間にしたいと思っております。奮っての参加をお待ちしております。皆様と福岡でお会いできる日を大変待ち遠しく思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

委員会だより

法人運営委員会

委員長 森戸光彦

委員 櫻井 薫(副委員長)、井上農夫男

柿木保明、川良美佐雄、佐藤裕二

下山和弘、角 保徳、羽村 章

水口俊介、山根源之、渡辺郁馬

幹事 菅 武雄

「口腔機能低下」を病名にできないか？

この数年、厚生労働省や医療福祉関係の団体に呼ばれることが増えてきました。私たち日本老年歯科医学会に期待されているところが大きいと感じます。共通のキーワードは、「口腔機能管理」や「口腔機能の低下」です。

口腔機能については、昔から歯科医療の重要なテーマであり、そのための治療技術の開発がなされてきました。学生時代には、「硬組織疾患」や「軟組織疾患」とその治療法について学びました。口腔機能は生化学や生理学できちんと学びました。しかし、高齢化することでその機能が低下することは、習わなかったように思います。低下することは、「そうだろうな」と誰でも想像できますが、「どうすれば予防できるのか」、「どうやって改善するのか」などは、きちんとしたセオリーがまだ存在しません。

今、本学会では、「加齢による口腔機能低下症(仮題)」を新しい歯科病名にできるのではないかと考え、事業を展開しています。「摂食・嚥下リハ」には、歯科の協働なくして十分な成果は得られないといわれています。先日も厚労省から胃瘻増設患者に対する嚥下の評価についての問合せがありました。その時、話に出たのは、「その関連での歯科病名がない」ということでした。「病名」がないとどんな理由があっても保険医療に絡むのは難しいことになります。

この件に関しては、ワークショップを昨年10月

に開催し、来年度(平成26年度)は同じ検査方法、同じ年代区分で全国で調査研究を展開する予定です。現在、その検査方法や年齢区分をこれまでのエビデンスを整理して構築している最中です。6月の総会時に皆さん方に説明し、協力をお願いできるように頑張っています。是非ご協力賜りますようお願い申し上げます。暮れには集計を終わらせ、27年度には次のステップに入る予定です。すなわち、「介入研究」です。これも皆さん方のご協力なくしては成立しません。併せてお願い申し上げます。

研究費については、いろいろところで説明をし、補助金のお願いをして回っています。一時的には学会の資金を用立てていただくことになるかもしれませんが、ご理解を賜ればと存じます。

多職種連携委員会

委員長 米山武義

委員 木村年秀(副委員長)、石黒幸枝

金子昌平、今村嘉宣、藤本篤士

幹事 浅野倉栄

2年間の委員会活動の総括を兼ねて、平成26年2月13日(木)、森戸理事長の出席のもと委員会を開催しました。その後出席した委員全員で東京の神田にある公益社団法人 日本栄養士会を表敬訪問し、迫 専務理事と連携のきっかけを築くことができました。双方で現在抱えている課題や栄養士、歯科医師、歯科衛生士に共通のテーマについて1時間30分にわたって率直な意見交換ができました。引き続き表参道にある公益社団法人 日本看護協会に松月常任理事、塩田日本看護協会職能委員会委員長を訪ねました。多くの若者が行き交う一等地に白亜の殿堂が立っているかのような錯覚を覚える中、松月常任理事、塩田委員長とも温かく我々を



日本栄養士会にて

迎えてくださいました。連携先の対象としては巨大すぎて難しいと思われがちな日本看護協会ですが、口腔という領域に大変関心をもっていること、歯科職とくに歯科衛生士と口腔のケアの連携を図りたいという旨の意見をお聞きし、新しい時代の到来を予感しました。また、日本老年歯科医学会が多職種連携を協働の最前線に位置しているという実感を得ました。



日本看護協会にて

なお森戸理事長から、チーム医療のための職種間連携を緊密に行うために、引き続き下記協議を図りつつ、委員会の活動を進めるよう指示がありました。

1. 多職種連携の現状
2. 現在の連携における問題点の抽出
3. 多職種連携委員会の具体的活動
4. 歯科から多職種への希望など

海外の老年歯科医学関連学会

European College of Gerodontology (ECG)

会期：2014年6月19～21日

場所：ペープリングゲン(ドイツ)

<http://www.gerodontology.eu/>

92nd General Session & Exhibition of the IADR

会期：2014年6月25～28日

場所：ケープタウン(南アフリカ共和国)

URL：www.iadr.org/iags

国際渉外委員会

International Association for Disability and Oral Health

会期：10月2～4日

場所：ベルリン(ドイツ)

<https://www.iadh2014.com/>

European Society of Swallowing Disorders (ESSD)

会期：10月23～25日

場所：ブリュッセル(ベルギー)

<http://www.myessd.org/>

支部活動だより

富山支部共催セミナー

日時：第1回 平成26年4月20日(日) 9:30～12:00

第2回 平成26年6月15日(日) 9:30～12:00

第3・4回 平成26年9月7日(日) 10:00～15:00

会場：一般社団法人 富山県歯科医師会

(〒930-0818 富山市五福 2741-2)

テーマ：平成26年度 富山県歯科医師会 高齢者歯科医学セミナー

主催：一般社団法人 富山県歯科医師会

共催：一般社団法人 日本老年歯科医学会 富山支部

内容

第1回：平成26年4月20日(日)

森戸光彦(日本老年歯科医学会理事長 鶴見大学名誉教授)

「超高齢社会の成立と社会学的問題点」

第2回：平成26年6月15日(日)

中川洋一(鶴見大学歯学部附属病院口腔機能診療科)

「知っておきたい口腔カンジダ症と粘膜疾患」

第3・4回：平成26年9月7日(日)

大渡凡人(東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野)
「高齢患者の有する問題点とその対応」

森戸光彦

「照会状の書き方、診療情報の分析、プロブレムリストへの反映(演習)」

単 位：第1回 1単位、第2回 1単位

第3回・第4回 2単位

お問い合わせ

一般社団法人 富山県歯科医師会

事務局次長 富山(とみやま) 悟

〒930-0818 富山市五福2741-2

TEL：076(432)4466 FAX：076(442)4013

Email：tomy@tda8020.com

北海道支部主催セミナー

日 時：平成26年5月10日(土) 12：45～16：45

場 所：北海道自治労会館(札幌市北区北6条西7丁目)

テーマ：在宅療養を支える口腔ケアと食べる支援

主 催：北海道口腔ケア研究会、日本老年歯科医学会北海道支部

内 容

1)教育講演1 チーム医療

森戸光彦(鶴見大学名誉教授、日本老年歯科医学会理事)

『在宅歯科医療の他職種連携』

2)シンポジウム

『在宅療養を支える口腔ケアと食べる支援』

池田和博(北海道医療大学病院)

橋本茂樹(西円山病院リハビリテーションセンター)

大澤佐登美(苫小牧地域訪問看護ステーション)

山下泰位(訪問リハビリテーション連絡会)

渡邊紀子(居宅介護支援事業者フロケアすばる)

単 位：2単位

お問い合わせ

北海道大学大学院歯学研究科口腔健康科学講座・
高齢者歯科学教室

TEL：011-706-4582 FAX：011-706-4582

新潟支部共催セミナー

日 時：平成26年5月18日(日) 13：30～16：00

場 所：新潟大学歯学部講堂

テーマ：平成26年度新潟大学歯学部同窓会セミナーI

シンポジウム「介護保険と訪問診療の実際」

主 催：新潟大学歯学部同窓会

共 催：新潟県歯科医師会

日本老年歯科医学会 新潟支部

内 容

江面 晃(日本歯科大学新潟病院総合診療科)

「訪問歯科診療の意義と現状」

木戸寿明(新潟県歯科医師会地域保健部員 新発田歯科医師会)

「訪問診療の実際」

野村 隆(新潟県歯科医師会地域保健部員 新潟市歯科医師会)

「口腔ケアについて、介護保険の使用の仕方」

高橋純子(歯科衛生士会下越地区会長 胎内市役所 健康福祉課高齢福祉係)

「歯科衛生士の仕事について」

有松美紀子(コーディネーター)

単 位：1単位

お問い合わせ

泉 直也

新潟県厚生農業協同組合連合会

柏崎総合医療センター歯科口腔外科

〒945-8535 柏崎市北半田2丁目11番3号

TEL：0257-23-2165(代表) FAX：0257-22-0834

E-mail：izuman1700@gmail.com



編集後記

今回のNLは、平成25年6月に開催されます日本老年歯科医学会第25回学術大会のご案内と準備の進捗状況を準備委員長である遠藤真美先生からご寄稿いただきました。ナイトクルージングの企画もあり素晴らしい大会になりそうです。さて本号から当学会各委員会だよりの掲載を開始いたしました。当学会の運営を支えている各種委員会の活動は、普段なかなか会員の皆様にお知らせできておりませんでしたので、各委員会の活動内容の周知を目的に企画いたしました。

これからも会員の皆様に、有益な情報を提供して参りたいと思いますので、お気軽にご意見、ご提案などお寄せいただければ幸いです。(平野浩彦)

発行人 森戸光彦

編 集 日本老年歯科医学会広報・研修委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

駒込TSビル402 (一財)口腔保健協会内

電 話 03-3947-8894 FAX 03-3947-8341